

総合型選抜 2022 年度過去問題 国際英語学科

I 日本語の意味を表すように、_____に適切な英語を入れ、英文を完成しなさい。

1. I _____ Osaka.
私は大阪出身です。
2. Could you _____ how to eat this?
この食べ方を教えてください。
3. Can you _____?
500 円貸してもらえませんか。
4. Why _____ cherry blossom-viewing?
日本人はなぜ花見が好きなのですか。
5. I _____ such a moving film as this.
私はこれほど感動的な映画を見たことはありません。
6. _____ the earth?
地球の大きさはどれくらいですか。
7. Do you know how many students _____ in your class?
あなたのクラスに何人の学生がいるかご存じですか。
8. If I were rich, I _____ a car for my son.
私がお金持ちだったら、息子に車を買ってやるのだが。
9. Three new variants of COVID-19 _____ over the past few weeks.
ここ数週間で、COVID-19 の新たな変異株が 3 種類見つかった。
10. She had to take care of her younger sister _____ she was only ten.
彼女はまだ 10 歳だったけれども妹の面倒をみてやらなければならなかった。

Ⅱ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本人のコミュニケーションスタイルは、うずまき型あるいはボーリング型と表現されてきました。前者は論点が曖昧、後者は相手からの単刀直入なフィードバックを期待しない、いわばモノローグ（ひとり言）のような話し方をする、という意味です。むろん、こうした見解は西洋人、特に太平洋戦争後日本に大きな影響をあたえたアメリカ人との比較から生まれたものであることに留意が必要でしょう。アメリカ人は、おそらく世界の誰よりも単純明快かつ直截なコミュニケーションを好み、また、会話をテニスや卓球のようなボールの打ち合いと考えているからです。

ご存知のようにアメリカは歴史の浅い移民国家で、異文化・異民族との対話の蓄積こそが国家の発展をうながしたともいえます。そうした環境における会話では、話のトピックを明快に示して、互いに直接的な表現のやりとりをしなければ、妥協点を見いだしたり、相手を説得することが難しいのです。論点をあいまいにすることは、つまり、多様な解釈を許すことに繋がります。相手が自分と同じ前提を持っているとは限りませんから、メッセージは誤解され、不快感、怒り、不信感などに繋がることもあるでしょう。

かつて、ロバート・カプラン（Kaplan, 1966）は、アメリカの大学に留学生としてやってきた多くの非英語母語話者が書いた作文の分析をして、異なる母語が異なる思考スタイルを生んでいる可能性を示唆した上、アジア諸国の人びとは概して（アメリカ人と比較して）うずまき型の表現スタイルを持つとしました。

この指摘は日本人には特にあてはまりそうです。と、いうのも、たとえば、中国人や韓国人のコミュニケーションスタイルは、むしろ西洋型と指摘されることも多いからです。芳賀（2013）は、アジアには異なる2つの文化圏があると述べました。アジアは西洋と類似した対立・攻撃型（凸型文化）の乾燥大陸文化と、協調・受身型（凹型文化）の湿潤な大陸辺縁・島国文化に分けられ、中国や韓国は前者、日本は後者の文化圏に属しているということです。

協調・受身型（凹型）文化では、自他の境目をはっきり区別して会話相手と対峙することが好まれません。一人ひとりの存在は、人間関係のなかにあるという考え方ですから、たとえばディベートなどに利用される手法のように、徹底的な討論をして相手に打ち勝つようなことは避けられます。また、それがあいまいさに価値を置く日本人の会話スタイルにも繋がっているといえなくもありません。今でも若者たちは、「やばい」「かわいい」「すごい」「ふつう」など、多義化した表現のなかに自らの意志を自由に反映させています。

（中略）

日本人のうずまき型スタイルの背景には、ことばを駆使した強い自己表現に対する否定的態度も存在します。日本人のコミュニケーションスタイルに大きな影響を与えたと考えられる禅仏教（禅）では、本当の自分を見つけるには、言語を否定しつくす地平に立て、とまで説きます（竹村、1988）。また「言挙げ」は、おごり高ぶった態度だとも評価されてきました。はっきりモノをいう人は、状況によっては敬意を集めますが、長くつきあう人としては敬遠されます。これが間接的に日本人の「察し」能力にもつながった可能性は否定できません。このような言語環境のなかで日本人は、もの静かで「おとなしい」人を好むようになったのでしょうか。そもそも「おとなしい」は、「おとな」が形容詞化した表現ですから、日本人にとって、多くを語らぬ会話スタイルは、成熟した大人の証といえるかもしれません。

伊藤 明美（2020）『異文化コミュニケーションの基礎知識－「私」を探す、世界と「関わる」』

問 上の文では、カプランが主張するうずまき型コミュニケーションが説明されています。まず、簡単にうずまき型コミュニケーションについて、自分の言葉でまとめ、その上で、自身の経験もふまえ、また、英語との対比もまじえて、日本語コミュニケーションにおけるうずまき型コミュニケーションについて800字以内で論じなさい（字数には句読点を含む）。